

国民文化祭・かがわ'97

平成9年10月25日(土)▶11月3日(月)

交流と創造 光と海と祈り

—ロダンを愛した
悲劇の天才彫刻家—



Camille
CLAUDEL
カミーユ・クローデル展

1996.9.28 [SAT] ▶ 10.27 [SUN]

開館／午前9時～午後5時(入室は午後4時30分まで) 月曜日休館
金曜日は午後7時まで開館(入室は午後6時30分まで)
初日は午前10時開展

入場料／一般900円 高大生600円 小中生300円
(前売りおよび団体20名様以上は2割引)

- 高松市に住所を有する長寿手帳・身体障害者手帳または療育手帳所持者は無料
- 第2・第4土曜日は小・中・高生無料

主催／高松市美術館・四国新聞社・西日本放送

後援／フランス大使館 協力／日本航空 企画協力／アプトインターナショナル

高松市美術館

高松市紺屋町10-4 TEL0878-23-1711

Camille CLAUDEL

芸術家として女性として、
波乱の人生を送った彫刻家。

シャンパーニュ地方に生まれた野生の輝き。文学や芸術の世界に遊ぶ少女。詩人で外交官となった弟ポール・クローデルをはじめとする家族への切ないほどの感情の肉薄と食い違い。芸術の都パリに出て彫刻家を志しながら、偉大な師であり同時に愛人でもあった彫刻の巨匠ロダンを相手に、青春期から熟年にかけて宿命的に訪れた性の高揚と破局。そして精神病院に強制入院されたままの30年間の絶望的な沈黙、老いと死。孤独な生の嵐を畳み込むように彫刻の造形に打ち込んだ女性彫刻家カミーユ・クローデル(1864-1943年)の波乱に満ちた生涯が知られるようになって深い感動を生みました。これはこうした「悲劇の女性芸術家」のイメージを持ったカミーユに関する評伝の出版、演劇上演、映画上映などが、作品の展覧会に並行するかたちで行われて大きな反響を呼んだからといえましょう。今日では様々な研究者の論文も蓄積され、やっとカミーユ・クローデルの彫刻家としての正当な評価が定着しつつあります。今やもっと広くかつ深く、彼女の作品の語る世界の全貌を理解すべき時が到来しています。今回、9年ぶりに日本で再び開催されるカミーユ・クローデルの本格的回顧展は、冷静にその作品世界を理解する絶好の機会となるでしょう。
高橋幸次(美術史家)



カミーユ・クローデル
「もの思い、あるいは心の内奥」1898

オーギュスト・ロダン
「クローデル嬢像」1900頃
ブリュッセル美術館蔵

今回の展覧会では、カミーユ・クローデルの代表的な彫刻作品約60点に加え、油彩、デッサン、手紙、写真などを一堂に展覧します。さらに、彼女の最初の師であるアルフレッド・ブーシェ(1850-1934)の作品と、彼女に大きな影響を与えたオーギュスト・ロダン(1840-1917)の作品もあわせて展示し、カミーユの作品世界の成り立ちと変遷、そしてその独自性を明らかにします。

□ 記念講演会 □

「カミーユ・クローデルの人と作品」

講師／高橋幸次(美術史家・東京国立近代美術館主任研究官)
日時／9月29日(日) 午後1時30分から
場所／高松市美術館講堂
入場料／無料(先着200名様)

□ 次回展覧会のお知らせ □

世紀末ヨーロッパ「象徴派展」

11月1日(金)～12月8日(日)

□ ミュージアム・ライブのお知らせ □

水嶋一江インスタレーション・ミュージック

10月23日(水)

《ストリングラフイー'96》

ラファエーレ・トレヴィザーニ フルート名曲の夕べ

11月2日(土)



カミーユ・クローデル
「オーギュスト・ロダンの胸像」
1888～89

カミーユ・クローデル
「ワルツ」1895